

長野県社協の投げ出さない相談支援体制

～満足できる支援なんてひとつもないんです。～

長野県社会福祉協議会

総務企画部 企画グループ
主任 佐藤尚治

はじめまして長野県社協の佐藤尚治と申します

チームで課題に向き合える環境を。

2019年から環境省の**社会福祉施策と連携した多頭飼育対策に関する検討会**に参加し、多頭飼育対策ガイドライン策定に携わりました。

2010年から生活困窮者自立支援制度のモデルとなった「パーソナルサポートサービス事業」で福祉に関わり始めました。そこでの支援活動がきっかけで、現在も対人援助を続けています。相談支援業務では、福祉分野の領域だけでは解決できない問題にあたることが多く、支援の在り方や連携の在り方を深めながら活動してきたと感じています。

地域の調和を作るために、それぞれの分野が視点を広げ協力し連携し合うことで支援のしづらさを乗り越え、同時解決を考えていきたいと思っています。



地域共生応援大使
ふっころ



出発点として。。

感染してるかもってお話

高知市の相談支援の3原則

逃げない

あきらめない

投げ出さない

この辺りが感染した



支援とは解決できるか否かではない

解決できなくとも関わり続ける

But

多頭飼育問題は別？

時間という概念

ヒト支援と動物支援の連携時の

違和感、温度差となる壁なのか？

発見時において

飼い主には支援としての時間が
たくさんあっても

動物には時間が**ない**場合が多い

支援と**保護**という立ち位置の違い



早期の探知発見がカギ

そのためには
事前の示し合わせで
想定した備えを

たとえば福祉側の視点

本人の生活に注目

ペットがいる状況：経済状況や衛生状態を気にかける

動物の状態は見立てが出来ない

本人が大丈夫と言えば鵜呑みにすることも

保健所や詳しい方が見れば気づけるところもあるかもしれない

そんな時に気軽に相談できる場所が、あるのか、ないのか、少ないのか

たとえば福祉側の想像

保健所や動物愛護センターに動物を連れていく人が

どんな理由で連れていくのか。

どんな事情で連れていくのか。

職員さんたちはどんな気持ちで対応するのか。

考える機会がない

たとえば動物愛護側の視点

福祉側が発見してる場合はケースに入りやすい？

動物愛護側が先に発見した場合、関係構築や接触の仕方が・・・

福祉関係をケースにどのように呼んだらいいか？

考える機会を作る

飼育状況のチェックシート

ガイドラインでは動物の飼育状況等、参照できるようになっています。

3. 不適正な動物の飼育状況

	チェック項目	該当性	備考	想定される連携先
1	極端に痩せた動物や、ふらつきのある動物がいる			動物愛護管理局（動物愛護管理センター）・保健所、動物病院、獣医師会、動物愛護ボランティア、動物愛護推進員、警察等
2	動物に、目やに、鼻水、耳の汚れ等がみられる			
3	動物に脱毛、皮膚の赤み、皮膚病等の症状がみられる			
4	痒そうにしていたり、頻繁に体を搔いたりしている			
5	著しく毛玉ができたり、爪が伸び過ぎたりしている動物がいる			
6	以前に比べて動物の数が増えている（ように見える）			
7	動物の餌が固まったり腐ったりしたまま放置されている			
8	屋内または屋外に排泄物が堆積している。			
9	屋内または屋外に動物の死体や骨がある			

生活環境のチェックシート

飼い主の生活環境等も参照しやすいシートができています。

チェック項目	該当性	備考	想定される連携先
(1) 日常生活			
1	日常生活は自分で行えるが、多少の支援が必要な状態である。		社会福祉部局(介護保険、高齢福祉・障害福祉・生活福祉)、医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、地域活動支援センター等
2	自分一人で日常生活を送ることが難しく、誰かの介護が必要な状態である。		社会福祉部局(高齢福祉・障害福祉)、保健所、医療機関
3	コミュニケーションを円滑にとることが、困難である。		社会福祉部局(生活福祉)
4	経済的困窮により、最低限の生活(衣食住等)に支障をきたしている。		
(2) 住環境			
5	家屋の破損等により、人が住める状態ではない。		社会福祉部局(高齢福祉・障害福祉) 住宅部局・生活環境部局、住宅等管理者、家主等
6	ライフライン(電気、ガス、水道)		社会福祉部局(高齢福祉・障害福祉)

「今さら聞けない」をなくす

解決型アプローチ

- ・ 就労
- ・ 住居
- ・ 債務関連
- ・ 家族問題
- ・ 医療
- ・ 社会保障関連



関係性アプローチ

- ・ 長期ひきこもり
- ・ 就労継続困難者
- ・ セルフネグレクト
- ・ ゴミ屋敷
- ・ 多頭飼育問題
- ・ 8050等

共有する機会を増やす

孤立を何とかしていききたいなら
私たちが孤立してたらあかん

相談者本人にも連携先にも
「一緒に動いてくれる人が誰もいなかった」
を作らない

連携にはお作法がある？

連携先は「機能」である前に人間です。

機能だけを求めたらうまくいきません。

短期的

〈クイック〉

解決を目指す 支援

借金の問題、住居の喪失、働く場所がない、健康状態が悪化、言葉の壁があり手続不能等、コロナ禍の生活困難問題

○就労課題、住居問題、債務関連、家族問題、医療社会保障関連
(就労定着困難、医療看護と介護のダブルケア、就労意欲低下家計管理スキル、低額年金受給者、未成年の社会自立外国籍労働者、車上生活者)

こぼれそうな領域や時期などを重層型のストック機能で受けながら用意できる見守りができる地域資源(かかりつけ)につなぐ

アプローチ困難者 (長期ひきこもり傾向含む)
働く前の段階の居場所資源が必要な方
近所付き合いのない孤立気味の方
家族が居なくなったらつながりが切れてしまう恐れのある方
不登校のまま大人になっていきそうな方

つながり続ける
支援

相談初期

〈グランドデザイン〉 長期的

発覚・発見

能動的

受動的

どう察知していくか。

拒否的

関係構築困難
支援拒否型

原因の中の要因を

どうしたらもっと前から関係を作ることができただろうか・・・



本人同意をえられない情報共有は？

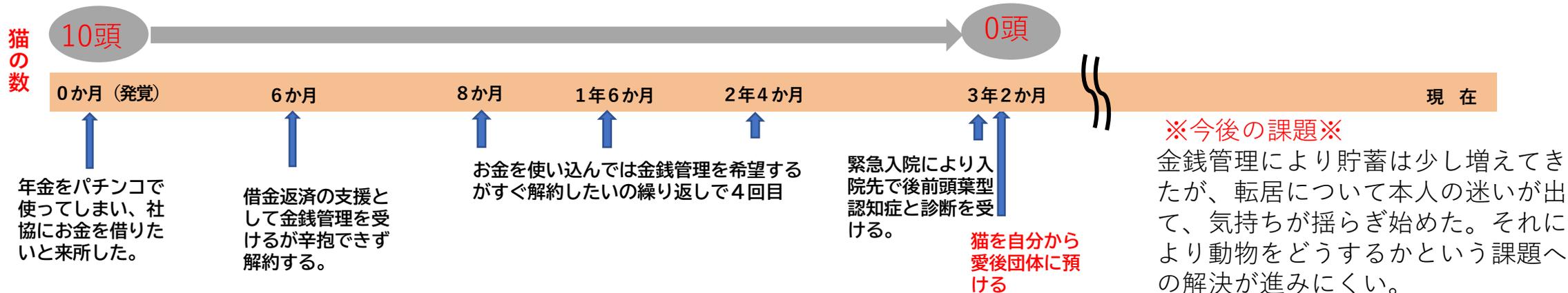
同意のないケースの共有体制

- 支援会議（生活困窮者自立支援法）
- 重層的支援体制整備事業支援会議（社会福祉法）
- 地域ケア会議（介護保険法）
- 要保護児童対策地域協議会（児童福祉法）



もやもやの残る支援ケースを紹介します。

事例の経過



動物愛護支援

動物愛護団体

市町村福祉課による庁内共有

知人

入院先医師・MSW

まいさぼ (自立相談支援機関)

社会福祉協議会・地域包括支援センター保健師

支援機関チーム

市町村福祉課

市町村
社会福祉協議会

地域包括支援
センター

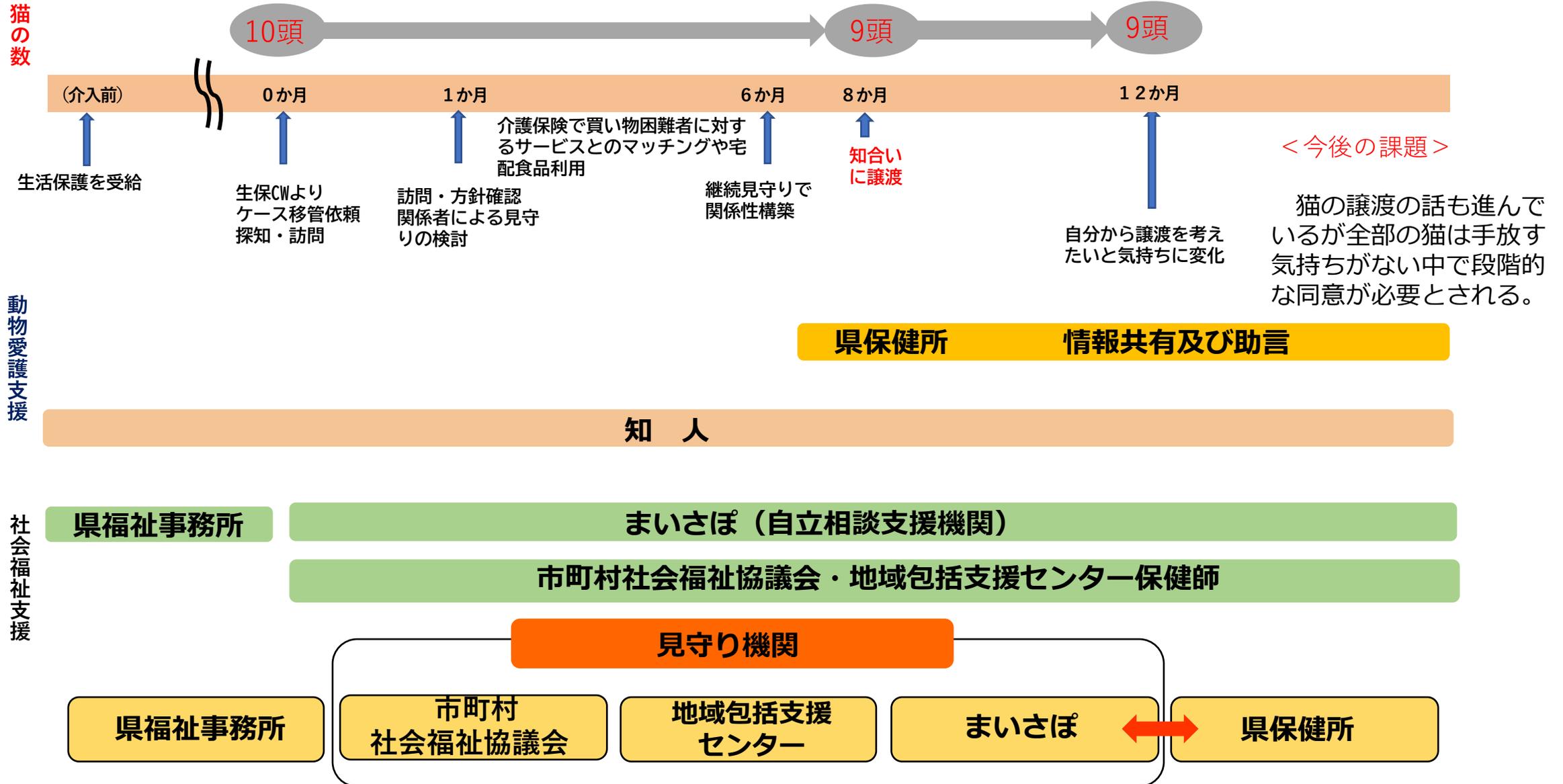
まいさぼ

病院MSW

社会福祉支援

もうひとつ紹介します。

事例の経過



どんな共通点があるのか？

生活困窮の人

- 近隣からの**孤立**
- 相談できる関係性**がない
- つながり**が少ない
- 喪失体験や喪失感を持つ
- 経済的に**困窮**している
- 承認**欲求が満たされていない
- 役割**取得ができてない

多頭飼育の人

動物依存があり、家族の一員として扱うも、繁殖力等の**知識不足**のため増やしてしまい**保護することのみ**を考えてしまう。

なにが背景にあるのか？

社会的孤立等 課題

- 周囲が把握できていない為、顕在化しづらい
- つながる力がよわい



- 表面化しやすい問題だけに合わせた制度を作っても解決はしない



【皆さんの連携し合う力が必要となっています。】

①緊急時期の場面

困難期を乗り越えるための**連携プレー**は日常の関係性

②短期支援の場面

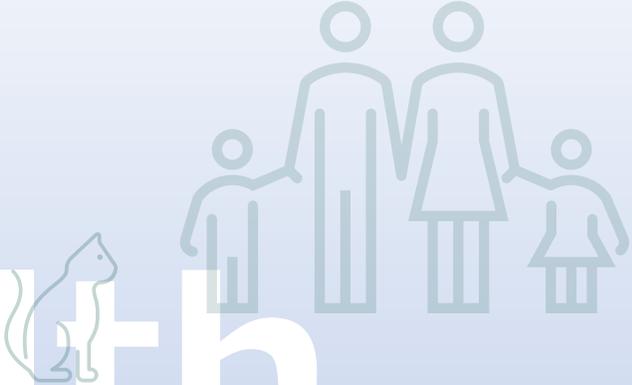
本人の第2第3の困難に対し**孤立予防**を含めた、
本人の参加できる場所、**困ったときにつながれる関係性**の確保を
視野に入れながら現状できうる生活基盤づくりを目指す

③中長期支援の場面

生活基盤を作りながら地域との関係、そして見守りや本人の
つながりやすさが対象者ごとに検討される



One Health

A light blue illustration of a family consisting of two adults and two children, with a dog sitting to the left of the family.

動物福祉問題は人間の問題が絡みあっているという点から

ワン・ヘルス、ワン・ウェルフェアの概念をたくさん感じます。

One Welfare

A light blue illustration of a landscape with several trees and a curved horizon line.

さいごに・・・



地域共生応援大使
ふっころ

ご清聴ありがとうございました。